

今週の為替相場見通し(2018年9月3日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		110.69 ~ 111.83	111.11	109.50 ~ 112.50
ユーロ	(ドル)		1.1585 ~ 1.1734	1.1605	1.1500 ~ 1.1800
(1ユーロ=)	(円)		128.55 ~ 130.87	128.98	126.00 ~ 131.00
英ポンド	(ドル)		1.2830 ~ 1.3043	1.2961	1.2800 ~ 1.3000
(1英ポンド=)	(円)	*	142.53 ~ 145.69	143.92	142.50 ~ 145.00
豪ドル	(ドル)		0.7177 ~ 0.7363	0.7193	0.7100 ~ 0.7300
(1豪ドル=)	(円)	*	79.64 ~ 81.80	79.82	78.50 ~ 82.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 上野 智久

(1)今週の予想レンジ: 109.50 ~ 112.50 円

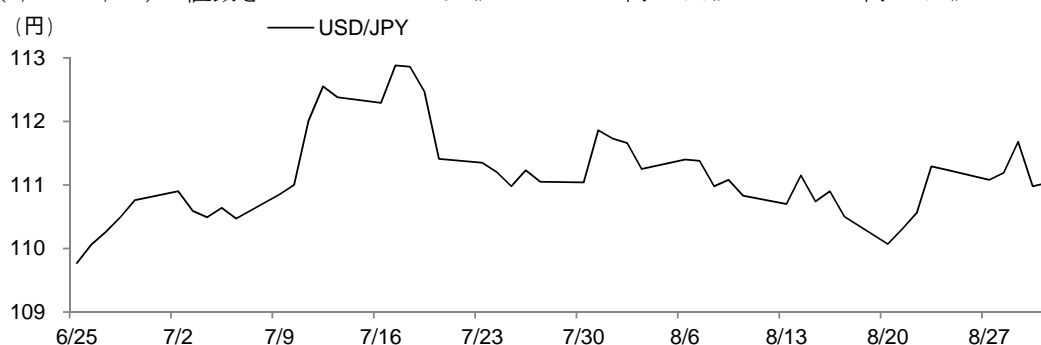
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は上に往って来いの展開。週初27日に111円台前半でオープンしたドル/円は、前週の米中通商協議で進展が見られなかったことや、北朝鮮の非核化協議の停滞を理由にトランプ大統領が米国務長官の訪朝見送りを指示したことなどを受けて、111円を割り込む展開。しかし、「米国とメキシコが北米自由貿易協定再交渉で一部合意、米国はカナダとの協議も再開する方針」と報じられると加ドル/円が上昇する動きにドル/円も111円台前半まで反発。28日は貿易摩擦懸念の後退を受け続伸も、イタリアの2019年予算がEUの定める財政基準に抵触する懸念が後退すると、ユーロが対ドルで上昇する動きにドル/円は一時111円割れの水準に下落。しかし110円台での滞空時間は短く、良好な米8月消費者信頼感の結果を受けて111円台に戻したドル/円は、翌29日には英EU離脱交渉についてEU首席交渉官が「前例のない特例的な提携関係を英国に提案する用意がある」との発言を受け、ユーロとポンドが買われ、クロス円が急伸する動きにドル円も週高値111.83円を付けた。しかし、30日には「トランプ大統領が来週にも2000億ドルの対中関税発動を支持」との報道を受けて、リスク回避の地合いが強まるとドル/円は111円付近まで下落。31日はトランプ大統領が、WTOからの脱退を警告するなど、通商問題への警戒感が高まる中で、欧州時間入り後に円買い優勢の地合いから週安値の110.69円まで下落。その後は対ユーロでドル買いが強まる流れを受け、ドル/円は111円付近まで反発し111円近辺で越週している。

今週のドル/円は引き続き方向感の出にくい展開を予想する。先週、相場を動意づかせた主なトピックスは“英EU離脱交渉”と“米国の通商問題”と、いずれも政治色の強い、相場への折り込みがしにくいトピックス。引き続き、為替市場は“ヘッドライン次第”の展開になりやすいだろう。その中において、ドルと円はリスクセンチメントの動向に対して他通貨に対して似たような動きをしている状況で、ドル/円においては膠着感を強めている状況。レンジブレイクに至る蓋然性は上下ともに高くないと考えている。ドル/円が動意づく可能性を考えるならば、月初の米経済指標の結果か。しかし、足元の米経済は米政権運営に伴う下支えもあり堅調そのもの。対中をはじめとする通商問題も米経済へのネガティブなインパクトは今のところ限定的、となると市場予想からの大きな乖離も期待しにくく、結局ドル/円は現状レベルでの推移になるのではと考えている。

(3)先週までの相場の推移

先週(8/27~8/31)の値動き: 安値 110.69 円 高値 111.83 円 終値 111.11 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

為替営業第二チーム 菊池 雄太

(1) 今週の予想レンジ: 1.1500 ~ 1.1800 126.00 ~ 131.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は底堅く推移した。週初27日に1.16台前半でオープンしたユーロ/ドルは1.1595をつけたが、独8月IFO企業景況感指数が予想以上に良好な結果となったことから1.16台後半まで値を上げた。28日はトリア伊財務長官が「イタリア政府はEU 財政赤字制限(GDP比▲3%)を破るつもりはない」と述べると1.17を上抜け一時週高値となる1.1734をつけたが、米経済指標の良好な結果を受けてドル買い優勢地合いとなり1.16台後半まで反落した。29日は「イタリア政府がECBに新たな国債購入プログラムを要請する可能性がある」と報じられ1.16台半ばまで下落したが、これは後に否定された上、EU主席交渉官のバルニエ氏の発言を受けて英国の合意なきブレグジットに対する懸念が後退するとユーロ買い優勢となり1.17台前半まで反発した。30日はバルニエ氏が「英国の合意なきブレグジットは依然あり得る」と発言すると1.16台前半まで下落。31日は、北米自由貿易協定(NAFTA)再交渉を巡る米国とカナダの2国間協議が合意のないまま終了したとの報道を受けドルが買われたことやトランプ米大統領が自動車関税を廃止するとのEU提案について「十分ではない」と発言したこと等から週安値となる1.1585ドルを一時つける場面もあり、1.1607レベルで週越した。ユーロ/円相場は、週前半は上昇するも、後半にかけ上昇分を吐き出す展開。週初27日、129円台半ば付近でオープン。先週からの堅調な動きが継続し、29日には130.85円まで上昇。翌30日には、週高値となる130.87円まで上昇する場面もあった。その後は、欧州政治リスク等から反落の動きとなり、31日には欧州株やダウ平均の下落を背景にリスクオフの動きを強め、一時128.56円まで下げる場面もあり、128.89円レベルで週越した。

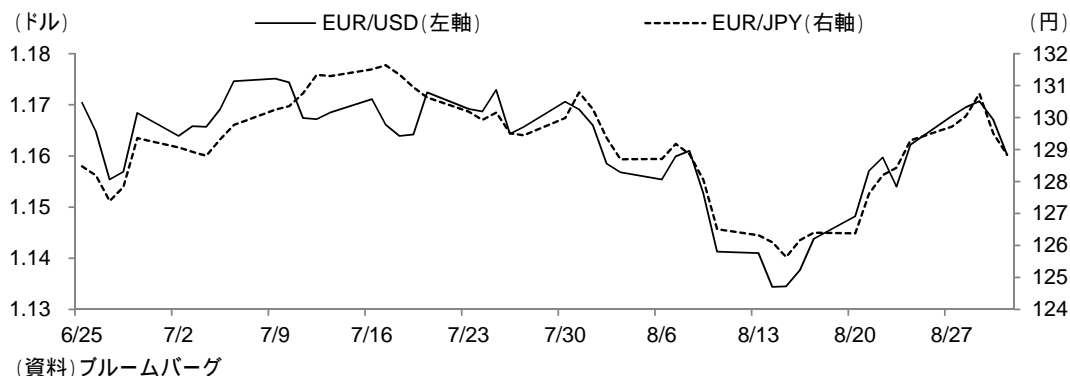
今週のユーロ相場は、上値の重い展開を予想する。欧州政治リスクからのリスクオフに警戒したい。ブレグジット交渉が実質的な期限を迎える10月に向け、8月23日に英国政府はEU離脱(ブレグジット)を巡り、国民や企業に対して「合意なき離脱」に備えるための文書の公表を開始したが、8月29日英EU離脱交渉のEUバニエル主席交渉官が「前例のない特例的な提携関係を英国に提案する用意がある」と発言しており、今後の行方に注目が集まる。また、トランプ大統領が第3弾に当たる2000億ドル相当の中国産品への関税発動に前向きな姿勢を示し、世界貿易機関(WTO)からの脱退の可能性にも言及した。二大経済大国による米中「貿易戦争」激化への懸念が強まり、国際的な貿易秩序が乱れれば、世界景気の減速を招きかねない。トランプ大統領の不規則発言等のリスクでドルを買いにくい状況でもある。また、アルゼンチンペソ等再び新興国通貨が非常に不安定になっており、リスク回避の動きが強まれば、ユーロ/円の反落にも警戒が必要になってくるだろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(8/27~8/31)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1585 高値 1.1734 終値 1.1605

(対円) 安値 128.55 高値 130.87 終値 128.98



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.2800 ~ 1.3000 142.50 ~ 145.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、小幅上昇。実際の値動きは29日欧州時間午後の数時間に集中しており、それ以外の時間は、(週引けに掛けての円高=ポンド/円の下落を例外に)極めて狭い値幅における膠着にとどまった。29日のポンド急騰は、山場を迎えつつある英のEU離脱交渉の、EU側の代表であるバルニエ首席交渉官の「EUは英に(他の第三国には)前例のない(緊密な)連携関係を提案する用意がある」との発言を好感した値動き。英、EU双方から「合意なき離脱」に備える動きが顕在化し、それに対する警戒感がポンドの重石となってきた局面で、EU側が、合意に向け大きく譲歩する姿勢を示したものと受け止められた。他に、ポンドの値動きで目立ったのは、30日以降の対円での軟調だが、こちらはポンド安と言うよりは円高の結果。前後して、トルコ・リラ、アルゼンチン・ペソなど、この間の新興市場通貨安の火種となってきた通貨が再び下げ足を強めたことや、トランプ米大統領が、中国からの輸入産品2000億ドル相当に、来週にも関税を適用する意向と伝えられたことなどが、金融市場全般のリスク回避姿勢を強め、通貨市場では円が全面高に振れることになった。

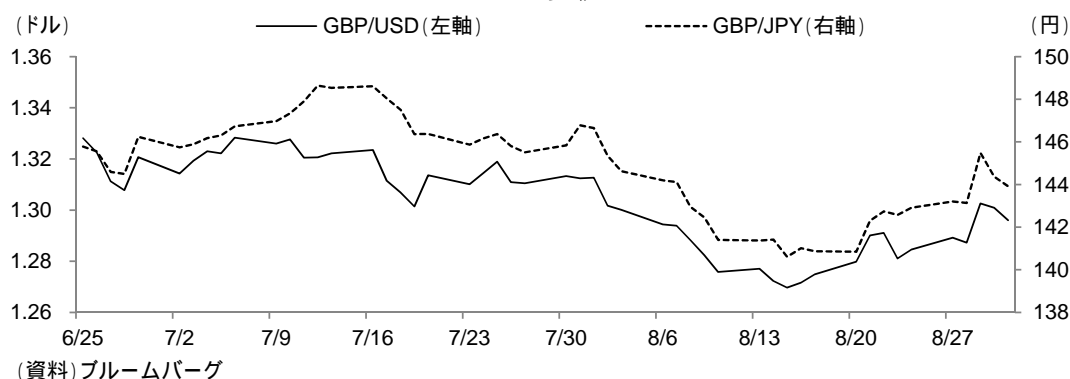
今週の英ポンド相場は、頭打ちから軟調推移を予想。確かに、バルニエ首席交渉官は、「前例のない連携関係を提案する」と言ったが、同時に、「単一市場は単一市場」「単一市場のアラカルトはない」とも述べている。英とEUの双方に、「合意なき離脱」を回避することに利益も関心もあるのは間違いないだろうが、離脱交渉にはまだ「アイルランド/北アイルランド国境問題」という大きな障害が、なんの前進もないまま残っており、双方が納得できる合意を見出すのは、引き続き容易な作業とは思えない。先週広がった安易な安心感が払拭されることで、ポンドが売り圧力にさらされる展開は十分に考えられるだろう。もうひとつ、この間の報道で気に掛かったのは、メイ英首相のアフリカ歴訪(南ア、ナイジェリア、ケニア)。同首相の目的は、アフリカ諸国との通商関係の強化とのことで、EU離脱後の布石と読むことができただろう。ただし、現在の時点で、英のアフリカ向け輸出は、50か国以上を合わせて、商品輸出が125億ユーロ前後、サービス輸出は80億ユーロ程度(2016年/欧州統計局)で、これは、商品輸出でベルギー一国に及ばない程度、サービス輸出では仏の半分程度の規模に過ぎない。アフリカに売り込みに行くことが悪いとは思わないし、長い目で見てアフリカ経済に大きな潜在力があるのも否めない。しかし、夏休みが明け、漸くEUとの離脱交渉が再開した重要なタイミングで、各国で歓待を受け、悦に入った様子のメイ首相の姿に、なにか違和感を抱かずにはいられなかった。迂遠な話ではあるが、もし、連日の報道に、同じような違和感を抱いた英国国民が数多くいたとしたら、現時点で既に極めて脆弱な同首相の政権基盤に、一段のダメージを加えることにもなりかねないのではないのか。仮に、年内にもメイ政権崩壊ということになれば、それは英のEU離脱にどんな影響を与えるかは不透明ながら(離脱取り止めにつながるのであれば、最終的に好感できないわけでもない)、少なくとも当座の反応としてポンドが売り込まれるのは避けられないのではないのか。

(3) 先週までの相場の推移

先週(8/27~8/31)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2830 高値 1.3043 終値 1.2961

(対円) 安値 142.53 高値 145.69 終値 143.92



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部シドニー室 今村 加奈子

(1) 今週の予想レンジ: 0.7100 ~ 0.7300 78.50 ~ 82.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は、米国と他国との貿易摩擦懸念の広まりから0.71台へ下落した。27日に豪ドルは0.73前半でオープン、北米自由貿易協定(NAFTA)再交渉が米国とメキシコ2カ国で合意され0.73半ばまで上昇したが、その勢いは続かず0.73前半へやや値を下げた。その交渉にカナダが合意となるかが鍵となっており、その結果待ちで見慣れた0.73台での商いに終始した。29日には「31日にまでにカナダも合意となる可能性」が取り沙汰される中、米4～6月期GDP改定値が予想4.0%より高い4.2%結果を受け米ドル買いから豪ドルは0.72後半へ下落となった。その後0.73前半で小動きであったが、4～6月期豪州民間設備投資が予想より弱い▲2.5%に失望し、豪ドルは再度0.72後半へ値を落とした。トランプ大統領は来月に中国へ追加関税を発動させるとの報道やアルゼンチンペソなど新興国通貨安を不安視してリスクオフ、豪ドルは0.72半ばへ小緩んだ。米国とカナダはNAFTA交渉で合意できずとの報道を受け貿易懸念強まり、豪ドルは0.7177まで下落し安値圏引け。先週の豪ドル/円相場は81円台から79円台へ軟調推移した。27日、豪ドル/円は81円前半で取引始まり、北米自由貿易協定(NAFTA)の再交渉で米国・メキシコの2国間での合意は好感されたが、カナダが加わり3カ国間での合意となるか結果待ちから楽観視はできず、81円後半では上値を塞がれた商いが続いた。ただ、米株式は今年の高値更新される中、81円近辺では買い意欲が散見されたが、弱い豪州民間設備投資の結果や貿易摩擦懸念から、結局80円半ばへ下落した。カナダと米国間でNAFTA交渉決裂を受け79円半ばへ軟調推移した。

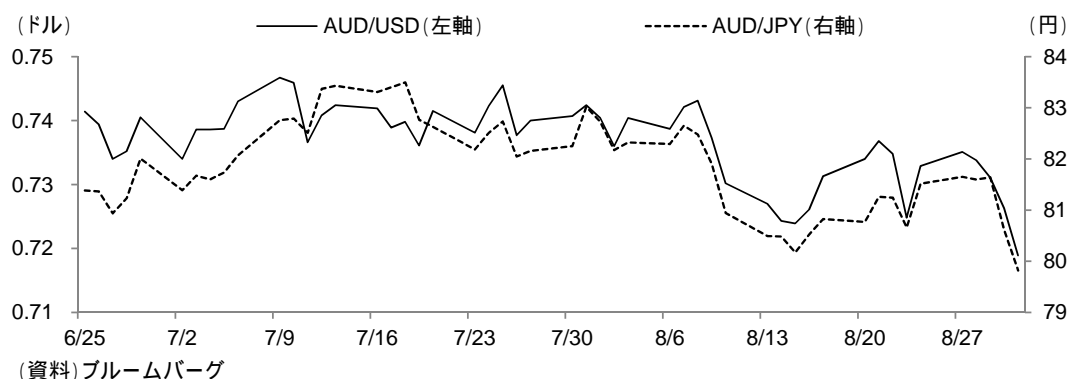
今週の豪ドルは、世界的に不透明感が強い中、上値重く下値を試す展開を予想する。今週は数多くの重要な豪州経済指標やイベントが予定されており、9月3日(月)は7月小売売上高や4～6月期企業収益、4日(火)は豪州準備銀行(RBA)理事会と4～6月期経常収支、5日(水)は4～6月期GDP、6日(木)は7月貿易収支などが注目される。特に豪州GDPは前年比3%近辺予想であり、その結果を注視したい。市場は、9月RBA理事会は過去最低の政策金利1.50%で据置を予想している。今週も引続き世界的な貿易摩擦・米国のイランやトルコへの制裁などが材料となり、それらが解決/収束の場合はリスクオンで豪ドル買い戻されやすいが、交渉紛糾/事態悪化の場合はリスクオフでさらに豪ドルへ下方圧力がかかるだろう。トランプ大統領が9月7日以降に中国へ2000億ドル相当の追加関税を発動するとの考えを示しており、追加関税実施の場合は地合い悪化となり、豪ドル下落を誘い易いだろう。テクニカルには2017年1月安値0.7165をブレイクするかどうか注目される。

(3) 先週までの相場の推移

先週(8/27～8/31)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7177 高値 0.7363 終値 0.7193

(対円) 安値 79.64 高値 81.80 終値 79.82



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。